

グラントシマウマの自傷行動

小林 智男, 土田 真一
(よこはま動物園)

よこはま動物園では、2021年3月までグラントシマウマ (*Equus burchellii boehmi*) 6頭 (雄2頭、雌4頭) を飼育していたが、そのうちの1頭において自傷行動がみられたため、一連の経過について報告する。

当該個体はNo.6: 雄(6才)で、2021年1月21日に辜丸に咬傷が確認された。その後も何度か自傷が確認され、その対応策として餌の回数増加、枯れ枝の設置、エランド舎の寝室の使用などを行った。対応後しばらくは自傷が見られず傷口も良化傾向にあったが、同年2月10日に突然激しく自傷し辜丸が露出してしまったため、翌日に露出した辜丸を麻酔下にて摘出した。術後は1度も自傷することなかった。

今回、自傷行動が発現した一因として、飼育環境の変化が考えられた。グラントシマウマは、アフリカのサバンナゾーンオープン当初は混合展示場にて終日雌雄同居を行っていた。しかし、2016年に産まれた子の成長に伴い、獣舎の小間が不足したことにより、2017年5月29日から展示場での雌雄同居を中止し、以降は雄群と雌群を日替わりで展示場に放飼していた。また展示場で同居していたキリンに攻撃を仕掛けるなど他種との同居が困難になり展示場で過ごす日数が半減した。狭い獣舎内で過ごす時間が増えたことで精神的な負荷がかかり、自傷行動が発現してしまったのではないかと考えられた。

